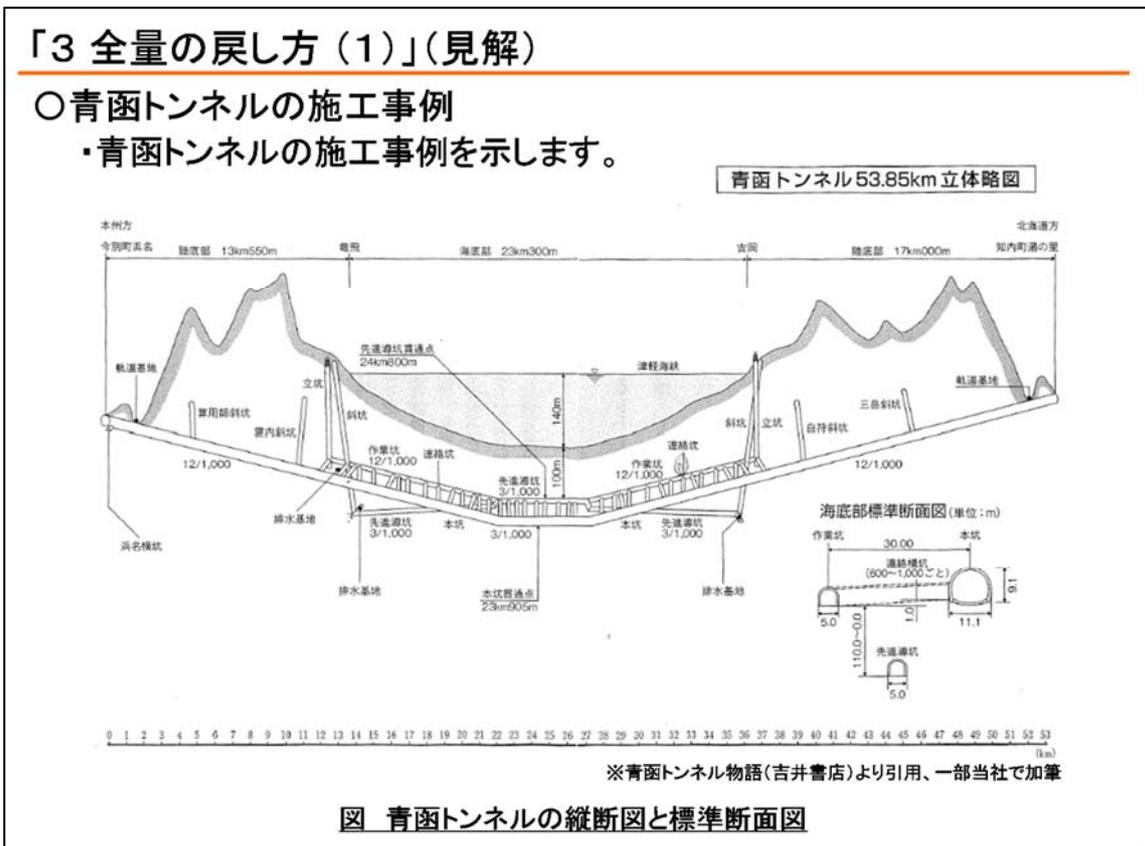


9、トンネルの掘り方に係る参考資料

(1) 参考資料1 青函トンネル掘削時における突発湧水事例

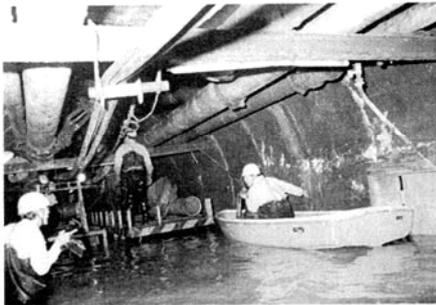
※「(前略) 引き続き対話を要する事項」に対する再見解(その1、その2)より抜粋



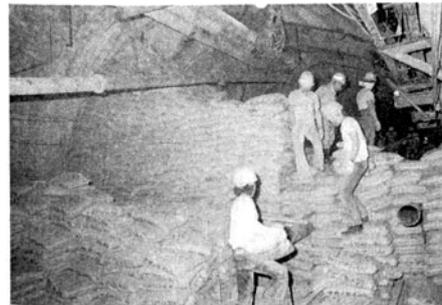
「3 全量の戻し方(1)」(見解)

○青函トンネルにおける突発湧水(3)

- ・この出水より人的被害が出たとの記録はありませんが、作業員等に対する安全性が低下しました。
- ・水没した作業坑、本坑を復旧するために、約半年の工期を要しました。
- ・最終的に、作業坑は迂回させることにより出水箇所を通過しました。



作業坑排水



作業坑バルクヘッド築造

出典: 津軽海峡線工事誌(青函トンネル) 日本鉄道建設公団青函建設局

(2) 参考資料2 突発湧水発生時の検討

- ・突発湧水が先進坑を下向きに掘削している時に生じた場合、先進坑のトンネル断面で、計画縦断勾配である下向き4%の勾配を踏まえ、トンネル後方に湛水する量を切羽からの距離ごとに算出しました。(図9-1、図9-2、表9-1)

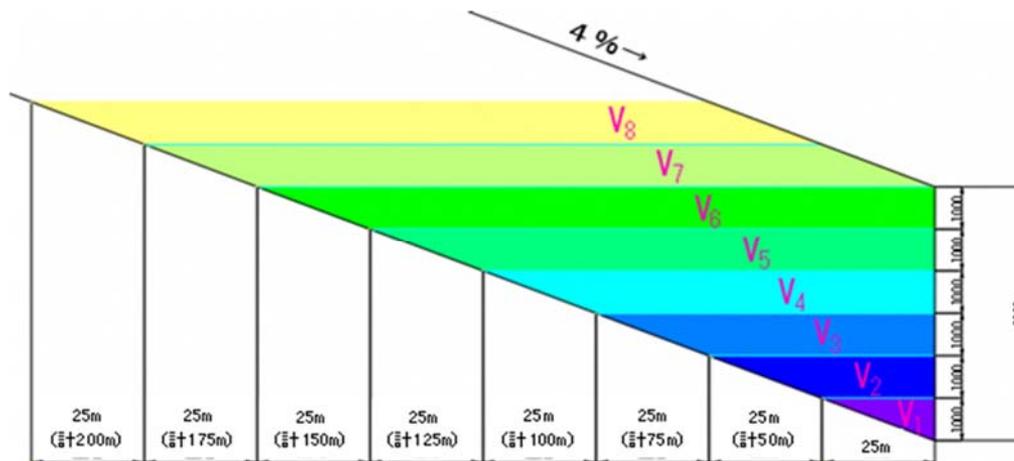


図 9-1 先進坑切羽からの浸水分布図

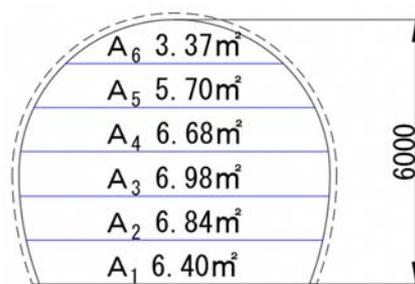


図 9-2 先進坑高さ1m当りの求積図

表 9-1 浸水分布における浸水体積と切羽からの浸水距離

体積 (m ³)	積算体積	浸水高さ	切羽からの距離 (m)	
V ₁	80.0	80	1	25
V ₂	245.5	326	2	50
V ₃	418.3	744	3	75
V ₄	589.0	1,333	4	100
V ₅	743.8	2,077	5	125
V ₆	857.1	2,934	6	150
V ₇	899.3	3,833	7	175
V ₈	899.3	4,732	8	200
V ₉	899.3	5,631	9	225
V ₁₀	899.3	6,531	10	250
V ₁₁	899.3	7,430	11	275
V ₁₂	899.3	8,329	12	300

(3) 参考資料3 山梨県境付近への導水路トンネル取付けに関する追加検討資料

- ・導水路トンネルの計画について、産業技術総合研究所の地質図にトンネル計画を重ね合わせ、さらにトンネル縦断図を作成し、確認しました。(図 9-3、図 9-4)

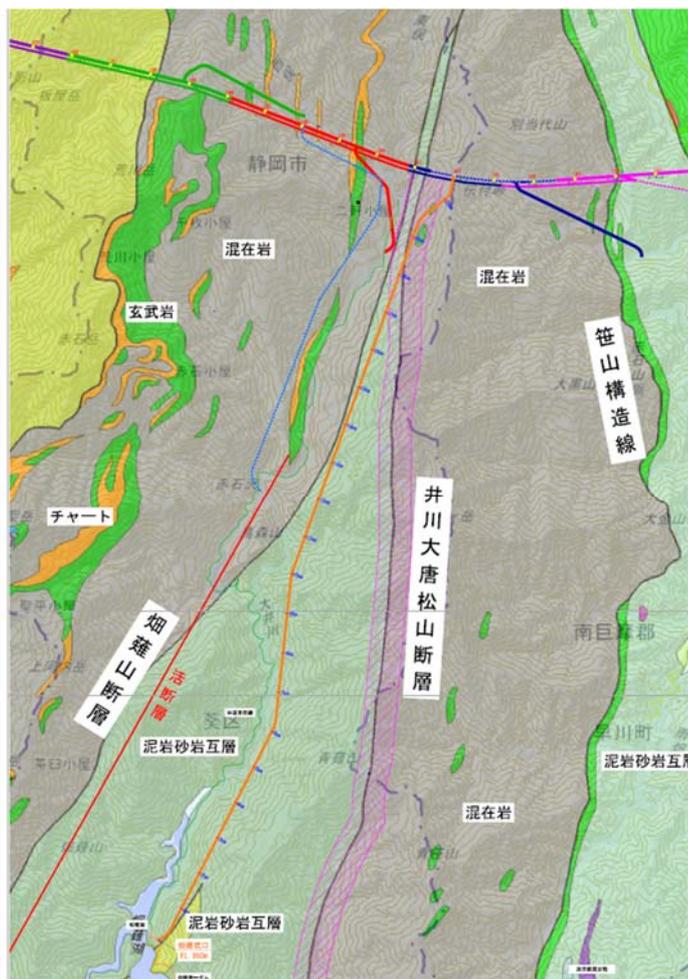


図 9-3 県境付近へ導水路トンネルを取付ける計画 (産総研地質平面図)

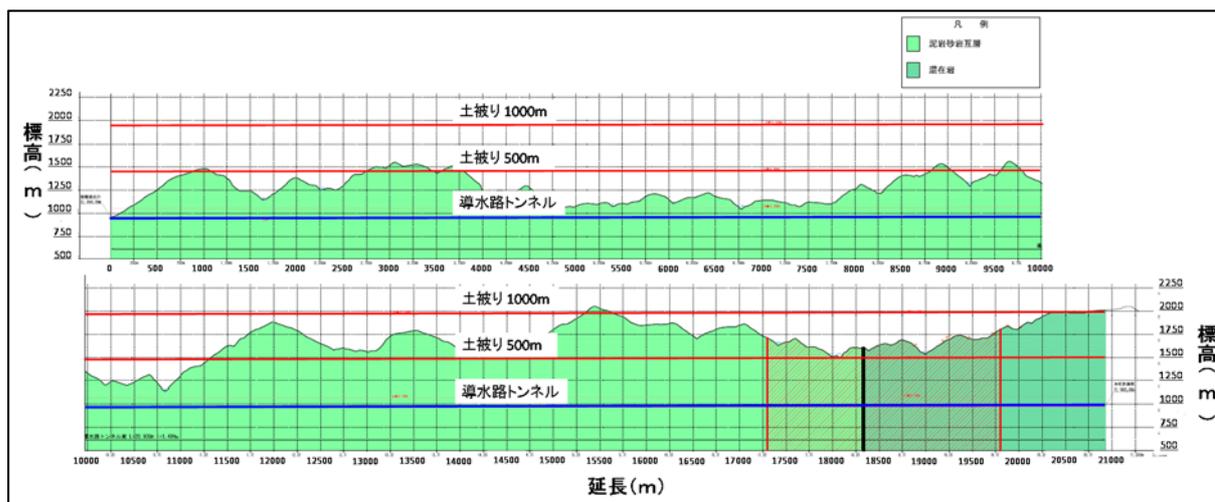


図 9-4 地質縦断図

- ・産総研の地質平面図では、山梨県との県境付近には、井川－大唐松山断層が明記されています。
- ・井川－大唐松山断層に伴う脆い地質の範囲がどの程度東西方向に広がっているか詳細が分からないため、平面図では、断層を含み約800mの幅で表現しております。
- ・産総研の地質平面図（図9-3）では、県境付近へ導水路トンネルを取付けるためには、井川－大唐松山断層を南北方向に平行して掘削する必要があります。
- ・地質縦断図（図9-4）で見て頂けると、坑口0kmから4km付近と11km付近から到達部20km付近までの区間約13kmにおいて、土被りが500m以上の大土被りとなり、長大なトンネルを掘削することは、技術的にも難しいと考えます。